

2022. 9. 4 (日) 使徒4:1~4

4:1 ペテロとヨハネが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちが二人のところにやって来た。

4:2 彼らは、二人が民を教え、イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣べ伝えていることに苛立ち、

4:3 二人に手をかけて捕らえた。そして、翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。

4:4 しかし、話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどになった。

<説教>

使徒ペテロがエルサレムの神殿の中で同胞イスラエルの民に向かって語った説教を聴いて来ました。ペテロとヨハネが午後三時の祈りの時間に神殿に行ったとき、「美しの門」と呼ばれる所に生まれつき足の不自由な人がそこにおいて、二人に施しを求めました。ペテロは「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言って彼の手を取って立たせました。するとたちまち彼は立ち、歩き出し、二人と一緒に神を賛美しながら神殿に入って行きました。その出来事を見聞きした人々が非常に驚いて神殿の中の「ソロモンの回廊」と呼ばれる場所にいた二人のところに一斉に駆けつけました。人々は、二人の力や敬虔さがこの人を歩かせたと思って、二人のところに集まって来ました。それを見たペテロが、人々に向かって語り始めたのでした。ペテロは、この人を強くし完全なからだにしたのは、自分たちの力によるのではなく、あなたがたが拒んで殺し、しかし神が死者の中からよみがえらせたイエスなのだ。そのイエスの名を信じる信仰のゆえなのだ、と言いました。そしてあなたがたは自分たちの指導者たちと同じように無知のゆえにイエスを拒み殺したのだから、預言者たちの口を通してキリストの受難をあらかじめ告げて実現された神に悔い改めて立ち返り、罪をぬぐい去っていただくように勧めました。あなたがたは神の預言者たちの子だ、神がアブラハムになさった祝福の契約に連なる子だ、と励ましました。あなたがた一人ひとりを悪から立ち返らせ、祝福に与らせてくださるのは、まず神がお立てになり、あなたがたにお遣わしになったお方である。それが、あなたがたは拒んで殺したけれども神がよみがえらせたイエスなのだ。あなたがたも、この生まれつき足が不自由だったが今やナザレのイエス・キリストの名によって、イエスの力によって立ち上がった人と同じように、イエスを信じて神に立ち返りなさい、神の祝福にあずからせていただきなさい、とペテロは人々に勧めたのでした。

そのように〈ペテロとヨハネが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちが、二人のところにやって来た〉(4:1)のでした。初代教会に対する迫害、試練がいよいよ始まります。〈ペテロとヨハネが民に話していると〉とあります。その言葉をルカは記さなかったけれどもヨハネもペテロとは別に（しかしもちろん同じ内容の、つまり神が預言者たちによってお語りになったように苦難を受け復活なさったイエスを信じて神に立ち返るように、との）説教をしたのかもしれませんが。時は〈すでに夕方だった〉(2)とあります。〈午後三時の祈りの時間〉から三時間くらいはあったでしょうから、その間、

ヨハネも「イエスの復活の証人」として人々に説教をしたことはおおいにあり得ます。そんな二人の説教と証言に人々が耳を傾けて聴いているときに、その二人を目指してやって来たのが祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちでした。〈祭司〉は神殿で神に礼拝が正しく捧げられるように仕える職務であり、〈宮の守衛長〉は神殿で礼拝がきちんと捧げられるように警備する役目の長であり、〈サドカイ人〉は祭司の家系に連なる人々で、「律法学者（パリサイ人）」と「長老」とともにユダヤ人の最高議会（サンヘドリン）を構成していました。サンヘドリンの場は神殿の中にありました。いわば「神殿関係者」の彼らは、生まれつき足の不自由だった人の癒やしが神殿の「美しの門」のところで行われたこととそれに驚いた人々が「ソロモンの回廊」にいたペテロとヨハネのところに集まって来たことを知って、そこに駆けつけたのでしょう。そこで彼らも二人による説教を聞きました。

〈彼らは、二人が民を教え、イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣べ伝えていること〉(2)を聞きました。「アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたはこの方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その前でこの方を拒みました。あなたがたは、この聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、いのちの君を殺したのです。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおりに完全なからだにしたのです。」(3:13-16)これは民衆だけでなく、「特権階級・上流階級」である〈祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たち〉も全く同じく耳を傾けなければならない言葉でした。「あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをした…悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。」(3:17-19)これも全く同じように、〈指導者たち〉である自分たちのこととして受け取るべき言葉でした。自分たちのことも民衆と同様の無知だと言われて彼らはプライドを傷つけられたことでしょう。そして何よりもこのとき彼らが絶対に受け入れられなかったことが、〈イエスを例にあげて（直訳「そのイエスのうちにある」）死者の中からの復活〉でした。サドカイ人たちは〈復活はないと言っている〉(マタイ 22:23、マルコ 12:18)、〈復活があることを否定している〉(ルカ 20:27)人たちでした。確かにペテロとヨハネたち、イエスの弟子たちだってイエスの復活を知り、復活のイエスと出会うまでは事実上〈復活はないと言っている〉人々だったと言えます。しかしそんなペテロとヨハネが、今や〈イエスの復活の証人〉として、聖霊に満たされて、生まれつき足の不自由な人の癒やしを通して確かに〈祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たち〉が主導して十字架で殺したイエスを神が復活させ、そのイエスが今生きて働いておられることを証したたのでした。しかしその真実な証言を〈祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たち〉は信じませんでした。むしろ反対に大いに〈苛立ち〉〈困り果て（新改訳第三版）〉、もうそれ以上二人が〈民を教え〉ないように、〈イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣べ伝え〉ないように、〈二人に手をかけて捕らえ…翌日まで留置することにした〉(3)のです。

こうして彼らは地上におられたときのイエスを拒み殺したのですが、また復活のイエスをも拒み、イエスを復活させた神をも拒みました。〈イエスの復活の証人〉の証言を信じなかったからです。サドカイ人たちは「聞いてはいるが聞かず、悟ることもしない」と心

を定めました。しかし〈話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどになった〉(4)とあるように、「耳のある者は聞いた」のです。「これは信じるべき言葉、事柄だ。その信仰を言い表すべきだ。」との聖霊の語りかけに素直に従いました。私たちの罪のためのイエスの十字架の死と復活、すなわち福音を語ったペテロとヨハネが捕らえられ、牢屋に入れられることになったことを見ても、それでも二人の〈話を聞いた人々のうち大勢が信じ〉ました。確かに〈このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに〉、また〈イエスによって与えられる信仰が〉、この大勢の人々をも〈強く〉したのです(3:16)。

私たちが復活の主イエスを信じ、従うなら必ず悪魔の攻撃を受け、艱難に会います。しかし同時にそこで復活の主イエスが働かれ、その真実がますます明らかになるのです。